

第4次福井県子どもの読書活動推進計画の概要(案)

1 策定の趣旨

- 読書の意義**
- 子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの
 - すべての子どもが自主的に読書活動をおこなうことができるよう、社会全体で環境整備に取り組むことが必要
- 計画の位置付け**
- 「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第1項に規定する「都道府県子ども読書活動推進計画」
 - 「福井県教育振興基本計画」を踏まえた個別計画

○**計画の期間**
令和7年度～令和11年度(5年間)

2 福井県の子どもの読書活動の現状

○**指標の動き** ※統計の数値は特に記載がない限り、「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)より

- 平日の読書時間が全くない児童生徒の割合
小6 R1: 15.5%→R5: 24.6%
中3 R1: 32.1%→R5: 37.8%
- 1か月に1冊も本を読まない高校生の割合
R1: 43.8%→R5: 46.3% 「高校生学習状況調査」(福井県)より

平日に全く読書時間がない小学6年生と中学3年生の割合、1か月に1冊も読まない高校生の割合はいずれも増加傾向

- 「読書が好き」な児童生徒の割合
小6 R1: 72.6%→R5: 68.6%
中3 R1: 69.3%→R5: 64.1%

小学6年生は全国に比べて低い傾向が続き、中学3年生はR5に全国より低下

- 平日に携帯電話やスマートフォンを30分以上利用する児童生徒の割合
小6 H29: 35.0%→R6: 67.0%
中3 H29: 62.5%→R6: 89.0%

- 平日の読書時間ごとの児童(小学6年)の割合(R5)
30分以上 : 31.7% (37.3%)
0分～30分: 43.6% (38.1%) ※()内は全国統計

スマートフォン利用時間が増える一方、読書時間が30分以上の小学6年生と中学3年生の割合が全国より低い傾向が続く

3 課題

- 自主的に読書を楽しんでいる児童生徒の割合が全国と比べ少ない傾向
- スマートフォン利用時間が増える一方、小学生までの読書習慣の形成が不十分
- 新型コロナウイルス感染症の影響により本に触れる機会が減少

4 基本目標・基本方針

○**基本目標** 子どもたちが本と出会い、読書を楽しむ環境づくり
～ワクワク・ドキドキ「読書って楽しい」「知ることってうれしい」をサポート～

- 基本方針**
- (1) 子どもと本との**出会いの創出**・・・子どもと本との出会いの機会を増やし、すべての子どもが読書に親しめる環境づくりを推進
 - (2) 子どもの読書を支える**人づくり**・・・子ども一人ひとりに合った本との出会いをサポートするために、子どもの読書を支援する人材を育成
 - (3) 子どもの読書に関わる**情報の収集・発信**・・・子どもの読書活動に関わる有効な情報収集を行い、学校、保護者、図書館、書店、民間団体をはじめ子どもに関わるすべての方々に発信

○**取組みにおける新たな視点**

- (1) デジタル社会に対応した読書環境の整備 
- (2) 多様な子どもたちの読書機会の確保 

5 第4次推進計画の主な取組み

(1)家庭における読書活動推進

- ◇(出)県内全市町でブックスタート事業を実施
- ◇(出)子どもの成長段階に応じた推奨図書の小冊子を図書館等で配布
- ◇(情)PTA活動と連携した講座を開催

(2)地域における読書活動推進

①図書館

- ◇(出)ジュニア司書の養成・育成、子どもの視点に立った読書推進
- ◇(出)子どもの成長段階に応じた推奨図書の小冊子を図書館等で配布
- ◆(出)県立図書館への電子図書館サービスの導入  
- ◇(出)郷土資料のデジタル化を進め、学校等の探究学習での活用を促進 
- ◇(出)図書館での本の紹介、読み聞かせ等の実施
- ◇(出)公共図書館が、読み聞かせやブックトーク等を行う学校訪問を実施
- ◇(人)子ども読書ボランティア向け相談会や講座の実施
- ◇(人)県立図書館で、県内図書館職員の資質向上を図る研修を開催
- ◇(情)子ども読書ボランティアへの読み聞かせ情報提供 

②地域

- ◆(出)児童館、児童クラブ、こども食堂等での読書に触れる機会の拡充
- ◆(人)学校図書館サポーターの育成・養成
- ◆(人)読み聞かせボランティアの育成・養成、レベルアップ支援
- ◆(人)読み聞かせボランティアカンファレンスの実施
- ◇(情)児童館での図書整備に推奨図書の情報の提供や助言等の実施 

◆・・・新規事業 ◇・・・継続事業
(出)・・・出会いの創出、(人)・・・人づくり、(情)・・・情報の収集・発信

(3)学校等における読書活動推進

①幼・保・こども園等

- ◆(出)推奨図書の紹介や図書整備、読書活動についての助言等を実施
- ◆(人)幼稚園教諭・保育士等を対象にオンライン研修の実施 

②小学校・中学校・高等学校

- ◇(出)学校図書館の機能を活用した授業や一斉読書、家庭読書などを推進
- ◆(出)児童・生徒用タブレットでの蔵書検索システムの導入を進め、学校図書館の活用を推進(小・中・高) 
- ◇(出)読書を楽しむために、校内ビブリオバトル等の取組みを推進(小・中・高)
- ◇(出)風花随筆文学賞への応募など自分も書き手となる取組みを推進(高)
- ◇(人)管理職や学校図書館の運営を担う教職員等を対象とした図書活用研修を実施  
- ◇(人)小中学校の学校司書の配置を市町へ働きかけ(小・中)
- ◆(情)高校での学校図書館を活用した読書推進の取組みの紹介、発表(高)

③ 特別支援学校

- ◇(出)バリアフリー図書(点字図書、LLブック等)の充実の推進  
- ◆(出)バリアフリー図書体験セットの貸出 
- ◆(出)公共図書館からの図書貸出を支援し、希望する本の貸出、配送を実施 

(4)全ての活動の基礎となる県の取組み

- ◇(出)子どもの成長段階に応じた推奨図書の選定、普及
- ◇(出)図書館、書店等で推奨図書のコーナー設置を呼びかけ
- ◇(出)市町の子どもの読書活動推進計画の策定および見直しの支援
- ◇(人)子ども読書ボランティアの優れた活動を積極的に表彰
- ◆(情)子どもの読書活動に関する情報を集約したホームページを作成  

第3次福井県子どもの読書活動推進計画(R2～R6)の主な取組み

(1) 家庭における読書活動推進

○ブックスタート

0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい「経験」と「絵本」をセットにしてプレゼントする活動



越前市 絵本バックと絵本
(絵本を1冊プレゼント)

(2) 地域における読書活動推進

○ジュニア司書の育成・養成(R2～)

図書館で働く司書の仕事や図書館の機能、調べものをするための知識や技術を学ぶ講座を開催。ジュニア司書認定後は、同年代の子どもたちに、図書館の良さや読書の楽しさを伝えていく活動を行う。



図書館とは？本の分類、本の探し方



カウンター体験



バックヤード見学

○公共図書館において本の紹介や読み聞かせ



県立図書館での読み聞かせ



こどもの読書週間企画展

(3) 学校における読書活動推進

○ビブリオバトル大会 中(R2～)、高(H26～)

発表者が読んで面白いと思った本を1人5分程度で紹介。意見交換を経て、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決める本の紹介コミュニケーションゲーム。
R6:県中学生大会(11/23)、高校生大会(11/9)に実施



県高校生ビブリオバトル(R5)



県ジュニア司書養成講座(小学生の部)でのビブリオバトルの様子(R6)

○推奨図書を活用した学校における読書推進活動(R4～)



推奨図書展示(福井市本郷小 R5)



ブックトーク(坂井市平章小 R5)



学校図書館活性化アドバイス
(小浜市立内外海小 R6)



調べる学習ワークショップ
(福井市清水北小 R6)



読書ワークショップ(池田町立池田小 R6)
学校図書館を巡り本に出会う

(4) 全ての活動の基礎となる県の取組み

○推奨図書の選定・情報提供(R2～)

乳幼児から高校生まで子どもの成長段階を8段階に分け、各段階で約100冊の推奨図書を選定。小冊子配布、およびリストをHPに掲載



推奨図書コーナー(県立図書館)



推奨図書小冊子 (各60～72冊掲載)
左から幼児編、小学生編、中・高校生編

○学校教職員等、保育士や読書ボランティア向け研修実施



講義「引き出す教育・楽しむ教育をつくる学校図書館」(50名参加 R5)



研修「保育の中で 絵本を生かす」(23名参加 R5)



講座「子どもに昔ばなしを」(41名参加 R5)